

<地域福祉活動を進めるに当たっての行政の関わり方>

～「きっかけ」づくり～

- ボランティア活動に参加したいと思っている地域住民の「きっかけづくり」として、地域の社会福祉協議会等に設置された「ボランティアセンター」による呼び掛けや、各種のボランティア講座の開催等の取組みが効果を上げており、今後とも、こうした取組みに一層の力を入れていくことが大切である。

～地域における関係者の連携づくり～

- さらに、ボランティアコーディネーターやボランティアアドバイザーなどの活動の中核となる人材の育成等を通じて、地域福祉活動全体としての関係者間の連携体制を形成していくことも重要である。

～既にある施設、活動等を有効利用することによる支援～

- また、各団体・グループに対する支援としては、事務所・活動拠点の提供、活動に関する相談、研修機会の提供等、既にある施設、活動等の有効利用が可能なものも多い。さらに、地域ごとに創意工夫を重ねて既存の関係者の活動についてうまく連携を進め、大きな効果を導くことも考えられる。

<地域福祉活動における高齢者の可能性>

- 高齢者が地域に積極的に貢献することを通じた「生きがいづくり」が、地域福祉活動の振興との相乗効果を生むことになる。高齢者の自由意志を基本としつつも、前述のようなきっかけづくり等を通じて高齢者の地域福祉活動への参加を社会全体で支援していくことが重要である。

<地域福祉活動の広がり：子育て支援への取組みが拡大>

- さらに、今後は子育て支援活動についても重点的に行う団体・グループが増加してくるものと思われる。このような自主的な活動が広まっていくことは、子どもの一時預かり等の支援に限らず、子育ての悩みに関する相談への対応、親子一緒に参加できるつどいの広場の運営等、まさに地域に密着した形での子育て支援活動として活発になっていくことが推測され、今後の地域における新しい子育て支援の形として発展していくことが期待されるものである。
- また、シルバー人材センターや高齢者を中心とした特定非営利活動法人（NPO法人）等において子育て支援活動が重点的に行われている事例もある。今後、これらの取組みが更に進んでいくことが望まれる。

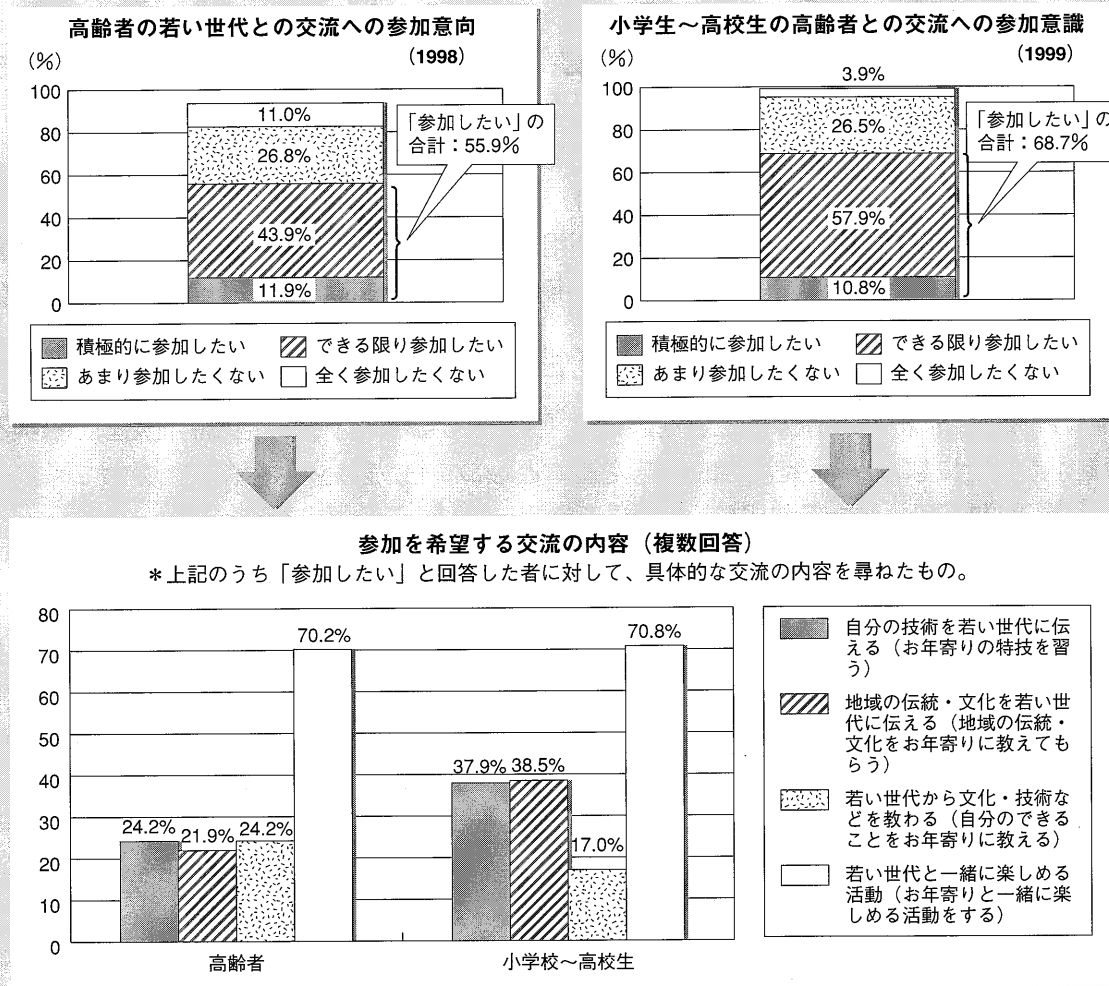
<高齢者が子育て支援に参加する意義：世代間交流の重要性>

- これまで子育てを経験してきた高齢者世代が、その経験を活かしつつ、自らの孫以外でも世話をしたり、子育ての知恵を若い世代に伝えたりすることが、専業主婦世帯を含めた子育て世帯にとって大きな支援となるものと考えられる。
- また、物理的にも心理的にも世代のつながりが無くなってきている中で、高齢者が子どもと一緒に遊ぶというような「楽しみ」としての気軽な交流でも重要な意味がある。具体的な事例においても、自らの孫と遊ぶ機会も少なくなっている中で忘れていた昔の遊びを思い出すことができたという高齢者の声や、学校では教えてもらえないような昔の遊びや手作りのおもちゃについて学ぶことが楽しいという子どもの声なども寄せられており、そのような交流を通じて、高齢者の生きがいづくりにつながるのと同時に、子どもの社会性が培われ、高齢者への理解も進むものと考えられる。さらに、そのよ

うな世代間交流が進むことが、ひいては住民同士の結び付きによる地域の連携が強固なものとなっていくことにつながるのではないかと考えられる。

- 高齢者および子どもの立場からも世代間交流が積極的にとらえられ（図3-2-8）、子育て世代の親の立場からも高齢者の子育て支援への関与に賛成する声大きい状況において、高齢者として生きがいづくりの一環として地域における子育て支援活動に参加していくことは、まさに高齢者世代と子育て世代の両方の希望に合致したものと考えられ、今後とも、このような形での高齢者と子どもの交流が深まっていくことが望まれるものである。

図表3-2-8 高齢者と若い世代との交流意識



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(1998) … (高齢者関係)
 内閣府「児童・生徒の高齢化問題に関する意識調査」(1999) … (小学生～高校生関係)
 (注) 数値を四捨五入しているため、合計が一致しない部分がある。